発行月：令和 1年 2月　家族新聞　第620号

環境教育「まず、今できることから」

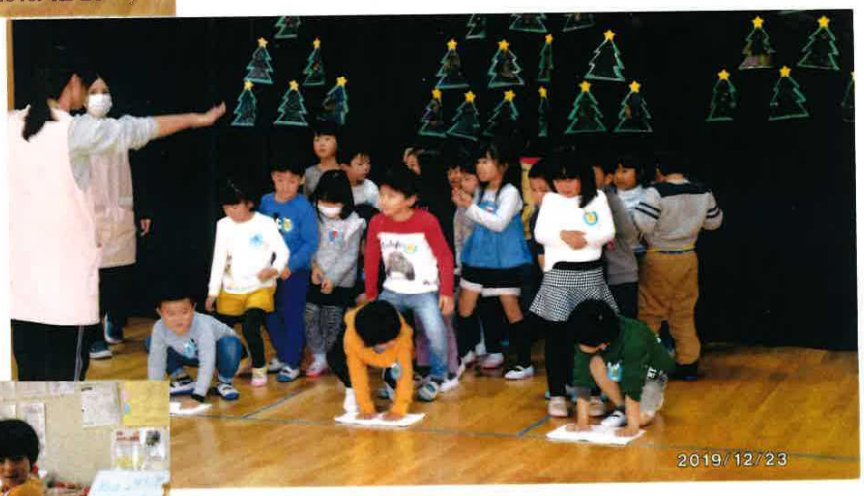
歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 髙橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL 0561-51-2878

遊び、ピック
挑戦をも楽しむ
ワンチーム

君が代が響く中、改めて心を
束ねる桜のジャージの雄姿が。
リーチマイケル
選手曰くラグビーは
メッセージのスポーツらしい。キャプテンが怖がらず
タックルに行く姿を見せ
続ければ仲間は奮
い立つ。弾きとばされ
たら、弱い気持ちが伝
わってしまう。

すべてのプレーが
メッセージになる。
それがラグビーです。
チームのためにぶつ
かり、投げ、駆け回る。
魂のこもったメッセー
ジのひとりとりに観客
は酔いしれるに違い
ない。



西部保育園
最後十二月に実施
しました。先生も忙しい中で
よく子ども達をまとめました
御苦労さんでした。

1964年の東京五輪のとき、
宮民挙げての清掃キャンペーン
が繰り広げられた。
「首都美化はオリンピックの
一種目」
こんな標語のもと、みんな せっせと
道路を掃き、ごみ拾いに励んだ
という。横町の暮らしにもいろいろ
影響を与えた、悲願の国家
イベントである。
東京のいたるところでビルや道
路の突貫工事が進み江戸新代
の面影を失っていろいろの風物
が、オリンピックで完全に消滅
したといわれる。

開幕まで残り6カ月将来の負担は
横に置き国立競技場の完成はすばら
しい。いよいよ本番となれば、これからは
交通規制だ警備だとさまざまな協力
が都民、国民に求められるに違いない。
祭典を成功させたいのはやまやまだが
五輪を錦の御旗みたいに掲げた無理
無体は勘弁願おう。
そもそもこのイベントはとても国体が大
きいから人々の熱意なしには開けない。
それでも前回のような時代ならともかく、
今和の日本は成熟国家である。
なるべく自然美化」は往時とは比べ
られないほど進んだ。
いま必要なのはオープンでスマートな
大会運営の美しさではないか。